

探究・校務改革
支援補助金
2025

令和6年度補正予算
地域未来人材育成支援民間サービス等利活用促進事業費補助金



探究的な学びの高度化/教職員の校務負担軽減を目指して

効果報告レポート

【事業者名】

株式会社 PRONAL

【サービス名称】

キャリア・ラボ

【サービスの支援項目】

カテゴリ-1 探究的な学びの高度化 メインサービス

カテゴリ-2 探究的な学びの高度化 オプションサービス

2026年1月



■ 探究・校務改革支援サービスの概要

1. サービスの概要、特徴

「キャリア・ラボ」は、自己理解から社会理解へとつなげる探究型キャリア教育プログラムである。中学生を主な対象とし、総合的な学習の時間や進路学習での活用を想定して設計されている。職業アニメーション動画や社会人インタビュー記事、ワークシート等を活用し、生徒が自分の興味や価値観をもとに将来や社会について考える機会を提供する。また、指導案や教材一式を整備することで、教職員の授業準備や教材作成にかかる負担を軽減し、授業運営の効率化と質の安定化を図っている。

(1) 導入によるメリット、類似サービスとの違い等

【カテゴリ-1 探究的な学びの高度化 メインサービス】

- 本教材は、自己理解から社会理解につながる探究型キャリア教育プログラムであり、職業理解と進路の自律的決定を促進。
- 中学生対象に特化した紙教材 × ICTコンテンツ（アニメーション動画・インタビュー記事・高校検索サイトなど）の統合設計により、従来の“単発的・汎用的な進路指導”とは異なり、探究学習・進路指導・個別最適学習を同時に実現。
- 「年間10時間で完結」「教材一式を一括提供」「授業準備不要」で、教員の負担軽減と質の高い授業運営を両立。
- 中高一貫校や公立中学校、私立中学校など幅広い学校種に対応可能。

【カテゴリ-2 探究的な学びの高度化 オプションサービス】

- 指導案・単元計画、指導要録、高校検索、三者面談用資料など、進路指導・学級経営に関わる複数の業務を一括で支援する業務効率化ツール。
- 教員が個別にエクセル等で作成している帳票・資料を、共通フォーマットとサービス利用により集約できるため、分掌担当者の教材開発・資料作成時間、授業者の事前準備、学年会・進路会議での打ち合わせ時間の削減につながる。
- 文部科学省のフォーマットに即した指導要録の構成を採用しており、そのまま実務に使える形で出力できる点が、汎用的な文書作成ツールとの大きな違い。

(2) 学習に関連する効果又は業務効率化・利便性等に関連する効果

【カテゴリ-1 探究的な学びの高度化 メインサービス】

- 生徒における進路決定の納得感、将来への視野拡張、自己肯定感向上といった定性的効果を確認。
- 「授業を考えずにすぐ実施できる」「紙×ICTの併用で学力差にも対応できる」といった教員側の業務負担軽減も大きく、進路指導・総合学習の準備工数を大幅に削減。
- 職場体験の事前指導教材としても活用され、教育課程全体の効率化に寄与。

【カテゴリ-2 探究的な学びの高度化 オプションサービス】

- 指導案・単元計画の雛形提供とデータ連携により、授業設計・教材準備の時間を削減しつつ、学習活動の質を一定水準以上に保ちやすくなる。
- 指導要録作成では、文科省フォーマットに沿った構成年度内の記録の一元管理により、クラス担任の年度末業務（要録記入）の負担軽減につながる。
- 三者面談用個人データ資料により、事前に生徒・保護者の考えを把握できるため、面談の質向上と時間内での的確な対話をサポートする。

■ 探究・校務改革支援サービスの概要

(3) サービスの活用場面

【カテゴリ1-1 探究的な学びの高度化 メインサービス】

・総合的な学習の時間、進路指導の自己理解・社会理解フェーズ、職業体験・探究活動の事前事後学習

【カテゴリ1-2 探究的な学びの高度化 オプションサービス】

・学年・分掌会議における年間指導計画・単元計画の作成、学期末・年度末の指導要録作成作業、進路指導・三者面談・個別面談における個人資料の作成作業

(4) 1サービスあたりの標準販売価格

【カテゴリ1-1 探究的な学びの高度化 メインサービス】

・年間773円(税抜)／1人あたり

※学習ノート、診断結果シート、学年・学級統計資料等が含まれます。(※利用料に通信費は含まれません)

【カテゴリ1-1 探究的な学びの高度化 メインサービス】

・年間2,000円(税抜)／1人あたり

※指導要録参考データ、三者面談用分析データ等が含まれます。(※利用料に通信費は含まれません)

2. サポート内容(サービスの利用に際しての自社のサポート体制等)

【カテゴリ1-1 探究的な学びの高度化 メインサービス】

・事前研修不要・マニュアル完備:教材一式納品時に進行マニュアル・ワークシート・動画ガイドが同封されており、導入研修なしでもすぐに授業が可能。

・進路指導のプロが企画・監修し、教育委員会出身者や進路指導専門家を含む社内チームが開発。

・個別サポート体制:希望校にはメール・電話・Zoomによる個別サポート対応可能。教員や担当者からの問い合わせには即日対応。

・報告書・成果整理にも対応:学校提出用の導入レポートやアンケート集計フォーマットも提供し、校内報告にかかる事務負担も軽減。

【カテゴリ1-2 探究的な学びの高度化 オプションサービス】

・指導要録、授業資料の作成代行、フォーマット提供

・指導案・単元計画、指導要録、三者面談用個人資料などを、学校の実務でそのまま使える形で作成・提供。

・高校検索サイトの運用サポート

・授業・面談での活用を想定したインターフェースとし、学校単位での利用方法の提案・相談にも対応。

・導入後の運用相談窓口

・教員からの問い合わせに対して、メール・電話等で対応し、資料活用やデータの見方をサポート。

■ 学校等教育機関の課題と解決策

中学校現場では、生徒の将来イメージや自己理解が不十分なまま形だけの進路・探究学習に終始してしまう一方で、教員は総合の時間や職業体験の計画・資料作成、指導要録作成など多岐にわたる業務に追われている。キャリア・ラボと業務お役立ちツールは、探究型キャリア教材と事務・進路指導支援ツールを組み合わせることで、「生徒の学びの質向上」と「教員の業務負担軽減」を同時に実現することが可能。

児童生徒・教職員が抱える課題

- 生徒が「将来のイメージ」を持たず、進路・文理選択を不安や偏った情報で決めてしまう
- 職業や社会の実態に触れる機会が少なく、「なぜ学ぶのか」が実感しづらい
- 探究学習の場面で、自分なりの問いを立てたり、振り返りを言語化したりする力が十分に育っていない
- 総合的な学習の時間や職業体験の「事前・事後指導」の教材が不足しており、毎回テーマ設定や資料作成に時間がかかる
- 学年主任や進路担当が、年間計画・指導案作成・教材準備・アンケート集計などに多くの時間を取られている
- 指導要録、面談資料、高校情報の整理など、事務的な作業が属人化しており、繁忙期の負担が大きい
- 授業づくりと事務作業の両立が難しく、「本来注力したい生徒との対話や個別支援」に十分な時間を割けていない

サービスが果たす役割

- 職業アニメーション・インタビュー記事・高校検索サイト・ワークシートを組み合わせた探究型キャリア教材により、生徒が「社会のリアル」と「自分の興味・強み」を結び付けて考えられるよう支援
- 年間10時間程度のカリキュラムとして設計されており、総合・進路・職業体験の事前学習を一つのパッケージでカバー
- 振り返りシートや自己理解診断を通して、生徒が自分の言葉で将来像を語れるようになり、文理選択や高校選択の土台を形成
- 指導案・単元計画、指導要録フォーマット、三者面談用個人資料、高校検索機能などを備えた業務お役立ちツールにより、教員の資料作成・情報整理・記録業務を大幅に省力化
- 共通フォーマットの活用により、学年・分掌内での情報共有がしやすくなり、属人化していた進路指導・記録業務の標準化に寄与
- 授業準備や事務作業にかかっていた時間を削減することで、教員が生徒との対話・伴走支援に時間を振り向けられる環境をつくる

■ 探究・校務改革支援補助金における活用場面

サービスの活用風景・授業の流れ

今回導入を決めた学校の課題

- 総合的な学習の時間において、進路やキャリアをテーマにした授業内容の設計が難しかった。
- 教職員ごとに進路指導探究学習の経験に差があり、授業の質や進度にばらつきが生じていた。
- 生徒が将来や社会について具体的に考える機会が限られており、学習が受動的になりがちであった。
- 授業準備や教材作成に時間を要し、教職員の業務負担が大きくなっていた。

キャリア・ラボを活用した取り組み

- 16タイプ・進路適性診断を活用し、生徒が自分自身の興味や特性を把握する活動を実施した。
- 職業大図鑑（アニメーション動画・インタビュー記事）を用い、仕事や社会について具体的に知る学習を行った。
- 高校検索サイトと学習ノートを組み合わせ、生徒が将来の進路を段階的に考える授業を展開した。
- 指導案・ワークシートを活用することで、教職員は準備時間を抑えながら授業を実施した。

活用によって得られた解決・改善効果

- 生徒が自分の将来や生き方について主体的に考える姿勢が見られるようになった。
- 職業や社会に対する理解が深まり、進路学習への関心が高まった。
- 授業の流れが明確になり、学年・クラス間での指導内容のばらつきが軽減された。
- 教職員の授業準備・教材作成にかかる負担が軽減され、授業運営が円滑になった。

キャリア・ラボに含まれる教材



① 導入動画

診断の活用の仕方や学習の進め方など生徒が見通しをもって学習がスタート



② 指導案

すぐに授業が開始できるように単元計画と全時間分の指導案をご用意



③ 指導要録

診断をもとに、指導要録の形式に沿ってご提供。Excelデータで編集も可能

生徒氏名	学習状況	指導内容	指導要録記入内容
山田 太郎	診断結果：創造性が高い	職業大図鑑のアニメーション動画を視聴し、自分の興味する職業について話し合った。	山田君は、自分の興味する職業について話し合った。職業大図鑑のアニメーション動画を視聴し、自分の興味する職業について話し合った。
佐藤 花子	診断結果：コミュニケーション能力が高い	インタビュー記事を読み、職業について学び、自分の将来について考えた。	佐藤君は、インタビュー記事を読み、職業について学び、自分の将来について考えた。
鈴木 健太	診断結果：リーダーシップが高い	高校検索サイトを閲覧し、将来の進路について考えた。	鈴木君は、高校検索サイトを閲覧し、将来の進路について考えた。
田中 美咲	診断結果：チームワークが高い	学習ノートを読み、自分の将来について考えた。	田中君は、学習ノートを読み、自分の将来について考えた。

本事業においてサービスを導入した学校設置者数・学校等教育機関数

学校設置者数	24	学校等教育機関数	71校
--------	----	----------	-----

	学校設置者名	学校等教育機関名	所在地	学校種	学年	実施内容
1	横浜市教育委員会	横浜市立中和田中学校 他3校	神奈川県	中学校	1～3年	総合的な学習の時間
2	大阪市教育委員会	大阪市立市岡東中学校 他4校	大阪府	中学校	1～3年	総合的な学習の時間
3	大牟田市教育委員会	大牟田市立御木中学校	福岡県	中学校	1～3年	総合的な学習の時間
4	上尾市教育委員会	上尾市立大石中学校 他1校	埼玉県	中学校	1～3年	総合的な学習の時間
5	春日市教育委員会	春日市立春日南中学校	福岡県	中学校	1年	総合的な学習の時間
6	宮崎市教育委員会	宮崎市立久峰中学校	宮崎県	中学校	1～3年	総合的な学習の時間
7	防府市教育委員会	防府市立野島中学校 他4校	山口県	中学校	1～3年	総合的な学習の時間
8	富田林市教育委員会	富田林市立藤陽中学校 他1校	大阪府	中学校	1～3年	総合的な学習の時間
9	相模原市教育委員会	相模原市立内郷中学校	神奈川県	中学校	2年	総合的な学習の時間
10	長野市教育委員会	長野市立篠ノ井東中学校 他1校	長野県	中学校	1～3年	総合的な学習の時間
11	松江市教育委員会	松江市立義務教育学校八束学園	島根県	中学校	2年	総合的な学習の時間

本事業においてサービスを導入した学校設置者数・学校等教育機関数

	学校設置者名	学校等教育機関名	所在地	学校種	学年	実施内容
12	京都市教育委員会	京都市立春日丘中学校 他3校	京都府	中学校	1～3年	総合的な学習の時間
13	伊勢市教育委員会	伊勢市立二見中学校 他2校	三重県	中学校	1～3年	総合的な学習の時間
14	射水市教育委員会	射水市立小杉中学校 他1校	富山県	中学校	1～3年	総合的な学習の時間
15	鹿児島市教育委員会	鹿児島市立坂元中学校	鹿児島県	中学校	2年	総合的な学習の時間
16	盛岡市教育委員会	盛岡市立巻堀中学校 他1校	岩手県	中学校	1～3年	総合的な学習の時間
17	北九州市教育委員会	北九州市立黒崎中学校 他3校	福岡県	中学校	1～3年	総合的な学習の時間
18	上越市教育委員会	上越市立東頸中学校 他2校	新潟県	中学校	1～3年	総合的な学習の時間
19	札幌市教育委員会	札幌市立八軒中学校 他11校	北海道	中学校	1～3年	総合的な学習の時間
20	大和郡山市教育委員会	大和郡山市立郡山西中学校 他1校	奈良県	中学校	1～3年	総合的な学習の時間
21	福岡市教育委員会	福岡市立舞鶴中学校 他6校	福岡県	中学校	1～3年	総合的な学習の時間
22	上田市教育委員会	上田市立菅平中学校 他1校	長野県	中学校	1～3年	総合的な学習の時間
23	静岡市教育委員会	静岡市立清水第八中学校 他1校	静岡県	中学校	1～3年	総合的な学習の時間
24	沖縄市教育委員会	沖縄市立コザ中学校 他1校	沖縄県	中学校	1～3年	総合的な学習の時間

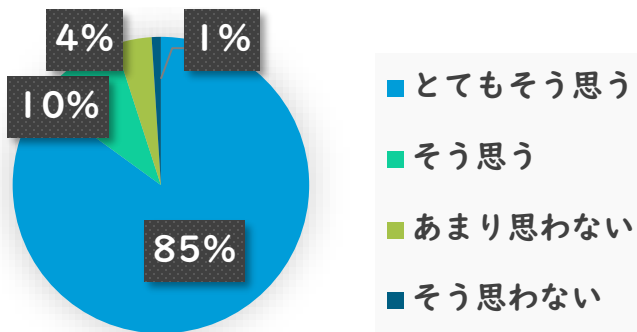
■【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

定量的効果検証

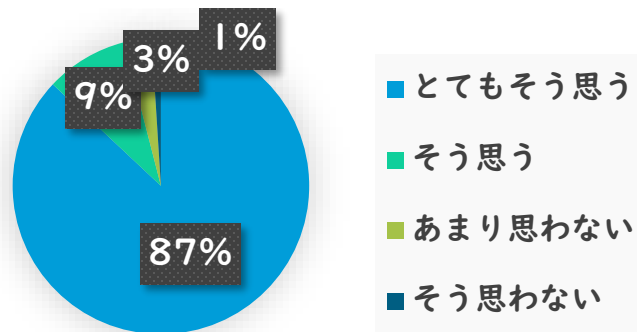
調査対象：本事業においてキャリア・ラボを導入した中学校
 調査対象：生徒（中学1年生～3年生）、教職員（学年主任、クラス担任、副担任）
 調査方法：授業実施後アンケート（無記名） 回答数：生徒：1,216名 教職員：57名

生徒

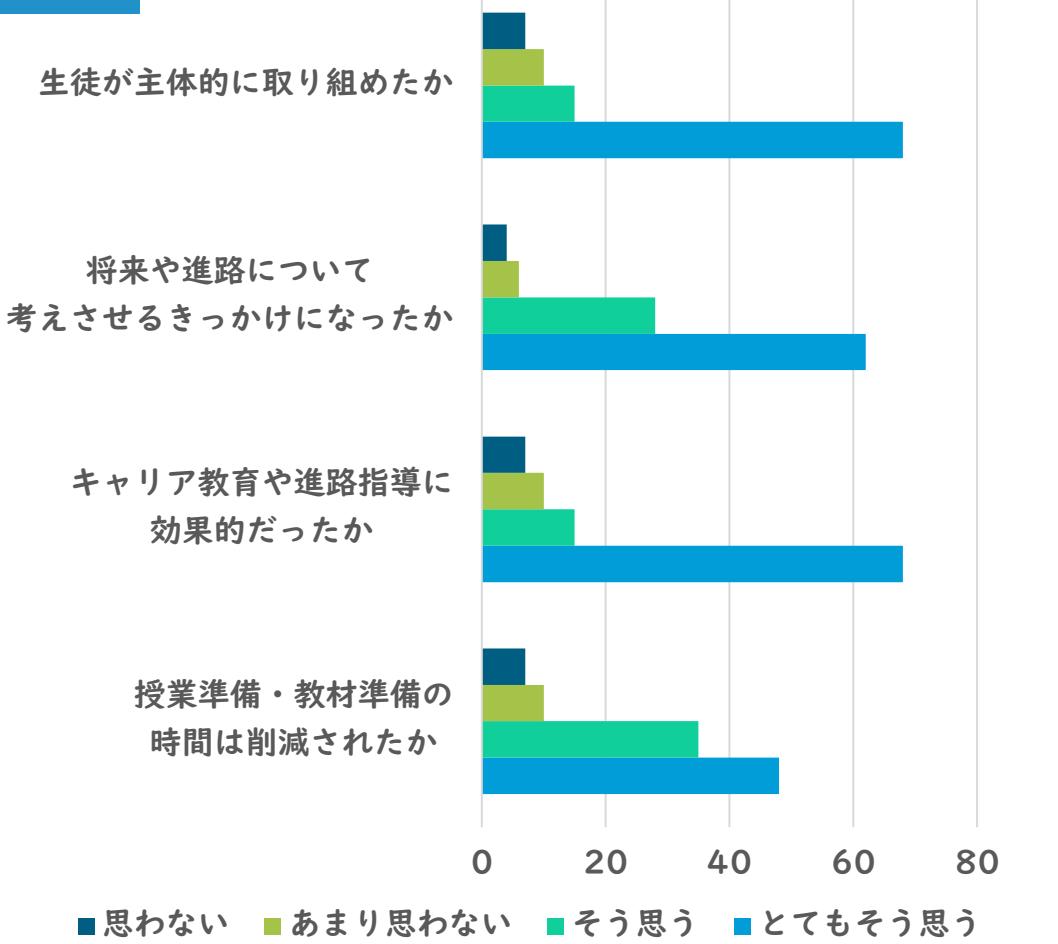
将来や進路について考えるきっかけになったか



職業や社会について新たな気づきがあったか



教職員



【検証結果】

生徒アンケートでは、「将来や進路について考えるきっかけになった」「職業や社会について新たな気づきがあった」と回答した生徒がいずれも8割を超え、進路・キャリアに対する関心と探究的な学びの深化に寄与していることが示された。また教職員アンケートにおいても、「授業準備・教材準備の時間が削減された」「キャリア教育や進路指導に効果的であった」とする肯定的回答が多数を占め、教材準備や指導設計にかかる負担軽減と、授業の質の安定化が同時に実現していることが確認された。

【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

定性的効果検証

定性的な検証結果から、本サービスは生徒に対しては「将来を考えることへの心理的ハードルを下げ、探究的な学びを深める」教職員に対しては「業務負担を軽減しつつ、指導の質を維持・向上させる」という二つの側面で効果を発揮していることが確認された。

生徒

本事業においてキャリア・ラボを活用した結果、生徒の学習態度や将来に対する意識に質的な変化が見られた。従来の進路学習では「進学先を調べる」「選択肢を知る」ことにとどまりがちであったが、本教材を通じて、生徒は自分自身の興味・価値観と社会や職業を結び付けて考える姿勢を示すようになった。特に、職業アニメーションや社会人インタビューを活用した学習活動では、「仕事は一つの正解があるものではない」「今の自分の得意・苦手が将来につながる可能性がある」といった気づきが生まれ、将来や進路について前向きに考えようとする態度の形成が確認された。また、ワークシートによる振り返りを通じて、生徒が自分の考えを文章で表現する機会が増え、探究活動における思考の言語化や自己理解の深化につながった。

教職員

教職員からは、教材準備や授業設計に関する負担軽減に加え、指導の進めやすさや授業の質の安定化に関する評価が多く寄せられた。具体的には、指導案や単元構成があらかじめ整理されていることで、授業準備にかかる時間が短縮された学年・クラス間で同一教材を用いることで、進度や内容のばらつきが減少した生徒の振り返り内容をもとに、面談や指導での対話が行いやすくなったといった変化が確認された。これにより、教職員は教材作成や資料準備に割いていた時間を、生徒一人ひとりへの声かけや伴走的支援に充てることができるようになり、教員の働き方と教育活動の質の両面に好影響を与えている。

生徒

【将来・進路理解に関する声】

- 将来について考えることが難しかったが、身近な職業の話を通して自分の将来を考えるきっかけになった。
- 進路は成績だけで決めるものだと思っていたが、自分の興味や考え方も大切だと分かった。
- 高校やその先のことを、前より具体的にイメージできるようになった。
- 自分がどんなことに向いているのかを考える時間になった。

【学習への主体性に関する声】

- ワークシートがあったので、何を書けばよいか分かりやすかった。
- 自分の考えを言葉にすることで、頭の中が整理できた。
- 動画やインタビューがあったので、集中して授業に取り組めた。

【社会理解に関する声】

- 仕事にはいろいろな形があることが分かった。
- 社会で働く人の考え方を知ることができた。

教職員

【授業準備・校務負担に関する声】

- 指導案や教材が整っており、授業準備の時間を大幅に削減できた。
- 総合的な学習の時間の内容に悩む必要がなくなった。
- 教材を一から作成する負担がなく、授業の質を保つことができた。
- 学年内で共通の教材を使えるため、打ち合わせの時間が短縮された。

【授業運営・指導のしやすさに関する声】

- 生徒が自分の考えを持って授業に参加していた。
- 発言が苦手な生徒も、ワークシートを通して考えを表現できていた。
- 授業の流れが明確で、進行しやすかった。

【進路指導・面談への活用に関する声】

- 面談時に、生徒が授業で書いた内容をもとに具体的な話ができた。
- 生徒自身が自分の考えを言語化できており、指導が行いやすかった。

本事業では、探究学習の質向上と教職員の業務効率化に一定の成果が見られた一方、導入初期や運用面において複数の課題が明らかになった。これらの課題に対し、教材設計・運用支援・情報提供の改善を行うことで、より円滑な導入と効果的な活用を実現した。

直面した課題

- 学校や教員ごとに、探究学習やキャリア教育への理解度・経験値に差があった。
- 導入初期において、年間計画や授業内での位置づけが明確でない学校があった。
- ICT活用に不慣れな教職員にとって、初回利用時の心理的ハードルが存在した。
- 生徒の学年や実態により、活動量や進度に差が生じた。
- 授業時間数や学校行事との兼ね合いで、実施時期の調整が難しいケースがあった。

解決するための改善策

- 導入時に、授業回数や活用目的を整理した「活用モデル例」を提示した。
- 指導案・ワークシートを学年別に整理し、教員が選択しやすい構成に改善した。
- ICT操作に不安がある教職員向けに、操作手順を簡潔にまとめた資料を提供した。
- 授業1時間単位でも活用できる設計とし、学校ごとの実情に柔軟に対応した。
- 生徒の理解度に応じて取り組み方を調整できるよう、複数の活動パターンを用意した。

■会社概要

社名	株式会社PRONAL
代表	代表取締役 白石 開
設立年月	2023年5月10日
本社	東京都中央区新川2-16-10-702
資本金等	500万円
売上高等	2,000万円
従業員数	5人
事業内容	・教材開発事業 ・コンサルティング事業

■お問い合わせ窓口

担当:キャリア・ラボ案内担当

電話:03-4533-7680

Mail:info@pronal-jp.com